

とびっく

東京の4区（千代田、中央、港、江東）連合
自転車シェアサイクル
に新宿区も本年10月
参加決定。

NPO BEEN

特定非営利活動法人 自転車環境創造ネットワーク

〒108-0072
東京都港区白金2丁目地先
白金高輪バイクイン内
事務局 TEL : 03-5793-4340
FAX : 03-5793-4347

特集号

2016. 6. 30

住みよいまちづくりに貢献を！

創立15周年へ向け 第14期通常総会を開催

理事長 森山 功



第14期通常総会を6月6日
無事終了し、お陰様で新たな
スタートが切れました。誠に
ありがとうございました。

”設立時の原点に返ろう“

さて当法人は平成15年1月12日内閣府の認証を受け同年5月12日第1回通常総会を開催し代表理事に岡賢治氏、副代表理事に諸岡昭二、海老沼孝二氏が就任し発足致しました。定款第2章第2条にその目的は「この法人は、放置自転車等で困惑している地域住民や自転車利用者に対して、自転車有効利用等に関する活動を行い、地域経済の振興と自転車関連事業経費の削減に寄与し、地域住民の交通マナー向上を目指し講習会・セミナー等を開き交通道徳・社会道徳の向上を目的とする」と謳われています。

当法人には課題はたくさんあります。しかし、原点に立ち返ることによって難局を乗り越えることが出来ると信じています。そのために、率直に当法人が目指すもの、やろうとしていることをお伝えしていこうと思います。そのために広報活動の充実を図ります。

今回、広報活動のプロの三氏を新たにスタッフとして迎え入れました。

明年は15周年を迎えます。皆様のお力添えを頂き15周年にふさわしいエポックを迎えると存じます。どうか、よろしくお願ひいたします。



真剣な討議を聞く参加者

平成28年6月6日(月)午前10時横浜市中区港町13番地酒販会館5階ホールで第14期通常総会が開催された。安岡総務部長の司会で開会を宣告。議長に多数決で渡辺昭男氏が選任された。議長が出席者の定数を確認。過半数の出席が確認され本総会が成立と発表された。続いて議事録署名人に安岡、須藤の2人が指名された。報告事項、審議事項に移り活発な審議がなされ、理事会の提出議案は全て可決された。



NPOビーンは社会奉仕とまちおこしの役割を担うものである。自転車環境創造ネットワークという社名が示す通り、自転車の環境を整備し、新たな第3の公共交通機関としての推進役を担うという大きな夢を我々は持っている。その夢を実現するために「自転車活用法案」の成立には支援を惜しまないものである。

総会終了後、同会場において理事会、事務局会議を行った。

もっと健康に！ もっとエコに！

平成28年2月から開始された、東京4区（千代田、中央、港、江東）連合の自転車シェアリング実証実験に、10月から新宿区も参加することになり、2020年の東京五輪・オリンピックにむけて普及拡大に弾みがつきそうだ。

運営管理のNTTドコモ・バイクシェアの担当者によると、舛添知事の一聲で、基本協定が結ばれ、それまでバラバラだった4区がいっきに連合することになったとのこと。

実証実験の現場では、課題が少なくないよう、そのトップが、地価の高い都内でのサイクルポートの用地確保だという。ポートは公道に設置できないので、空き地探しが優先され、その結果欧米の300台メッシュのように規則的なポートの確保が難しく、ネットワークにばらつきが出ることが避けられない。さらに、ポート面積にもどうしてもばらつきが出る。ポート位置をスマホなどで利用者にナビゲーションしたいのだが、スマホを見ながらの自転車利用は違反なの



ビル解体の跡地に設けられたサイクルポート

本格化するシェアサイクルの課題と将来性

で、頭の痛いところだ。

ところで、都内のシェアサイクル提供の目的は、主にビジネスで、今後は観光客利用に広げていきたいと計画している。ところが、品川駅の南側にあるポートでは、こんな現象がおきている。品川駅の南側には湾岸沿いに大型マンションの建設が進められているのだが、その入居者が、シェアサイクルをマンションと品川駅間の移動に利用しているというのだ。タクシーやバスにくらべて料金はからないし、しかも時間が自由なので便利だ。

こうした域内利用者を対象に、マンション内の駐輪場にも自転車シェアリングのポート建設の検討も始まっている。

導入したばかりで課題は多いものの、利便性への理解が深まるにつれて、自転車シェアリングは将来的に電車、バスに次ぐ第3の公共交通として市民権を得ていく、かなり大きなポテンシャルを秘めているといえそうだ。



マンション住民も利用しているJR品川駅南側のサイクルポート

もっと楽しく！

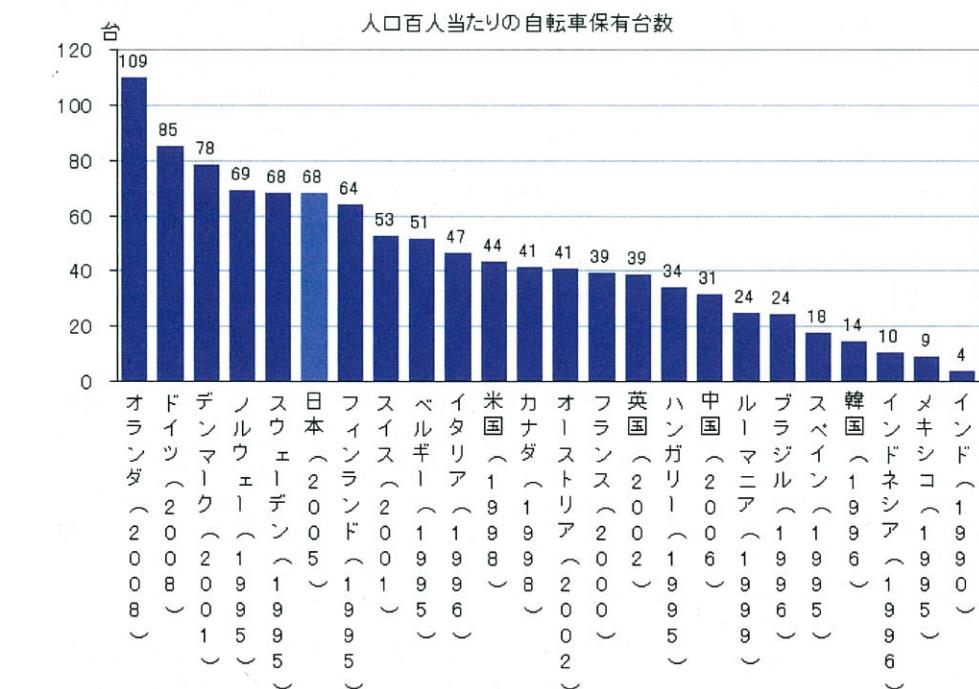
自転車の危険走行 取り締まりから丸1年

平成27年6月1日から施行された、改正道路交通法によって自転車の危険走行取り締まりが強化され、今年の5月末で丸一年が経った。

この間に全国の警察が摘発した信号無視などの「危険行為」は1万5千件にのぼる。都道府県別でワーストワンは大阪府で5126件、次いで東京の3581件、兵庫の2054件と続き、ゼロ件は福井だった。

3年間で2回以上の摘発で命じられる有料講習を受けたのは24人（男性19人、女性5人）で、主な危険行為の内訳は、信号無視42.7%、踏切への立ち入り25.7%、携帯電話などながら運転による事故12.6%となっている。違反者では20代～30代が最も多く、全体の40%を占めていた。

自転車普及台数の国際比較



(注)カッコ内はデータ年次。自転車統計要覧の保有台数を使い人口当たりは当サイトで算出。
(資料)(財)自転車産業振興協会「自転車統計要覧」2009年9月(人口はWDI Online 2009.11.20)

なぜ、自転車事故は 交差点で多発するのか？

自転車事故の約7割が、交差点で発生しているといわれている。その内の半数が出会い頭での事故で、右折時、左折時事故がそれぞれ1割を占めている。さらにその内の6割は、自転車側の違反行為が指摘されており、信号無視、一時停止をしなかったなど、基本ルールとマナーさえ守っていれば殆どの事故は、防ぐことができるといわれている。ルールとマナーをしっかりと身につけることの大切さをこのデータは物語っているといえる。

自転車大国日本の課題

2011年の東日本大震災を契機に、自転車利用への関心が一気に高まり、自転車普及が一段と進んだという印象があるが、2009年のデータを見ると、人口100人当たりの自転車保有台数で、日本は1位のオランダの109台には大きく及ばないものの、6位の68台でアジア（中国17位、韓国21位）ではダントツの自転車大国だ。しかし、2011年の自転車事故による死者数では、日本が639人でオランダの144人と比べて約4.4倍も多い。眞の意味での自転車大国となるには、オランダなど自転車先進国が進めている自転車専用道のハードルルール・マナー教育のソフトの両面で自転車環境の整備を急ぐ必要があるのでないだろうか。

自転車でアメリカ西部を走る

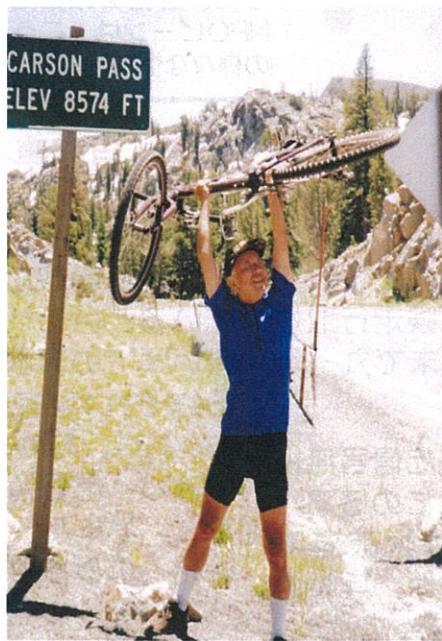
(1)

出水 豊

6月のアメリカ西部は暑い。特にこの年(2000年)は桁違ひだった。テレビが連日異常気象を伝え、空気が乾燥しきっていて、カリフォルニア、ネバダ、ユタ各州のあちこちで山火事が発生しているらしい。しっかり握った自転車のグリップが、腕を伝って流れ落ちる汗で滑る。

「ネバダ砂漠に入るとガラガラ蛇がうようよいいるから」と州警察に言われてはいていた長ズボンはとっくに脱ぎ捨てていた。サクラメントを出発して4日目。標高6,000mの峰々が立ち並ぶシエラネバダ山脈を越える山道は、左へ左へと巻いて、上りっぱなしだった。

長野市長から「オリンピック環境親書」を預かって自転車で走りだし、太平洋は帆船でなんとか越えて、サンフランシスコ



からまた自転車。もう2年も続いているこの壮大な「グローバル・トライアスロン」は、さすがに67歳の身にはこたえる。麓から2日目までは坂の上を見つめながら「あの角を曲がった

ら、きっと下りか、せめて平坦だ」と自分に言い聞かせながら、やっと曲がってみたらまた果てしない上りが続いている。今は2mほど先の路面に目を落としながら機械的にクロスバイクのペダルを踏み込むだけだった。

この道をリッター3キロくらいの大型アメ車が20分に1台は往来している。1台が横に停まって年配の男が話しかけてきた。

「どこへ行く」。右側通行のアメリカだから右足をついて停まるのにやっと慣れた。左足をついたのでは体が左に傾いて猛スピードのトレーラーなどにはねられる。「ソルトレークだ

「ユー・アー・クレージー」。男はハンドルから離した両手を肩のあたりで広げて走り去った。

事務局だより

最近、特に自転車の有効活用が大きく指摘されています。各自の健康管理上、省エネルギー対策上、災害時の移動手段等、その有用性が市民生活に必要です。

各都市でその対策をどのようにして実現していくか、諸施設の展開に苦慮しております。

大切なことは、市民一人ひとりが身近な所でルールを守って正しく、また、楽しく自転車に乗って生活をエンジョイすることではないでしょうか。「自転車活用推進法案」が出されようとしていますが、国、自治体、関係業者、市民が一体となって、環境づくりを規定しようとしております。この法律の成立は、より良い地域社会づくりに貢献するものと思います。

この法律の成立に大いに期待しております。地域の街づくりは、市民一人ひとりが災害のない安心して住める街にしようとする意識を醸成し、それを実現することではないでしょうか。私たちは、そのための自転車を中心とする諸施策を実行してまいります。(渡辺)

〈新役員紹介〉

理事 倉嶋 康

自転車の新時代が叫ばれている中、第14回総会で新しく理事になりました。ビーンの活動の方向性が、自転車を通して環境を大切にする私の理念と合意、これからも、さらに地域社会に貢献していくためにも、地域の環境を考えていく最前線で貢献できることに誇りをもって働かせていただきます。

〈プロフィル〉 早稲田大学卒。毎日新聞社会部記者、編集委員歴任。長野冬季五輪組織委員会役員。国際環境使節団団長として長野市から米国ソルトレーク市まで自転車と帆船で走り、五輪親書を伝達。長野で無料自転車「みどりの自転車」を運営し

監事 金子 和夫

この度監事の役をお引き受けしました金子和夫でございます。自転車の環境を整えるということは狭い日本にあって大変重要なことあります。私が主催する環境政策フォーラム、国家ビジョン研究会でも話題になる問題であります。“自転車”という問題に“科学の眼”を注ぎNPOビーンの発展に寄与させていただきたいと思います。

〈プロフィル〉 中央大学卒、神奈川県中小企業同友会代表理事。現在アイコンテクノ株式会社代表取締役会長、株式会社トリウムテックソリューション取締役会長、一般社団法人環境政策フォーラム会長ほか「国家ビジョン研究会」などで活躍。

※ 大久保理事は次回で紹介します。